

## 平成18年度学術創成研究費 中間評価結果

研究課題名	糖鎖生物学と神経科学の融合による 神経糖鎖生物学領域の創成	研究代表者名	岡 昌吾
-------	----------------------------------	--------	------

### 1 研究を推進する必要性について

推薦の趣旨に照らし、採択時以降の関連研究分野の学術動向を踏まえた上で引き続き研究を推進する必要性は高いか

- ア ( ) 高い
- イ (×) やや高い
- ウ ( ) やや低い
- エ ( ) 低い

意見：  
糖鎖関連タンパク質のクローニングがほぼ終了しつつある状況の中で、糖鎖の機能解析に焦点が向けられてきている。現在、貴重な研究が展開されており、わが国の生命科学を推進するにあたり必要な研究である。

### 2 研究の進捗状況について

(1) 当初の研究目的に沿って、着実に研究が進展しているか

- ア ( ) 予定以上に進展している
- イ (×) 概ね予定どおり進展している
- ウ ( ) やや遅れている
- エ ( ) 遅れている

意見：  
HNK-1 と PSA の研究に新知見を得ており、糖鎖生物学と神経科学の結びつきを展開し、研究は確実に進んでいる。

(2) 今後の研究推進上、問題となる点はないか

- ア ( ) 研究経費
- イ ( ) 設 備
- ウ ( ) 組 織
- エ ( ) そ の 他

意見：  
特に問題はない。

### 3 これまでの研究成果について

当初の研究目的に照らして、現時点で期待された成果をあげているか (又はあげつつあるか)

- ア ( ) 期待以上の成果をあげている
- イ (×) 概ね期待された成果をあげている
- ウ ( ) 期待された成果をあげつつある
- エ ( ) 期待された成果はあがっていない

意見：  
GlcAT-P、GlcAT-S や硫酸化酵素の特性と相互作用に関する発見は極めて重要であり、また LTP に関する GluR2 の作用を見出したことも有益であり、現時点で期待した成果をあげている。

#### 4 研究組織について

研究者相互に有機的に連携が保たれ、活発な研究活動が展開される研究組織となっているか

ア ( × ) 有機的に連携が保たれている

イ ( ) あまり有機的に連携が保たれていない

ウ ( ) その他

意見：  
研究代表者を中心によく連携がとれており、それぞれの分担者の特徴が生かされている。

#### 5 研究経費の使用状況について

研究経費は効率的・効果的に使用されているか

ア ( × ) 効率的・効果的に使用されている

イ ( ) あまり効率的・効果的に使用されていない

ウ ( ) その他

意見：  
研究経費の使用については特に問題点はない。

#### 6 研究課題の総合的な評価

該当欄		評価結果
	A +	当初計画を超える研究の進展があり、期待以上の成果が見込まれる
×	A	当初計画どおり順調に研究が進展しており、期待どおりの成果が見込まれる
	B	当初計画より研究が遅れており、今後一層の努力が必要である
	C	当初計画より研究が遅れ、研究成果も見込まれないため、研究経費の減額又は研究の中止が適当である

##### 総合的な評価意見：

糖鎖生物学の研究の方向を、神経科学との融合に向けて新しい学問領域を形成しようとする意欲的研究である。今や糖鎖機能解析の時代に突入する中で、本研究は新しい成果を生み出し、今後大いに発展が期待される。当初の研究目的から広がっている部分があるため、後半の研究では当初の目的に絞込み世界に類例のない成果が得られるよう努力されることを願う。